

眞谷栄一の 異見私見



新しい年を迎えたが、2020年は欧米では年末にワクチン接種が開始されたとはいえ、一方で変異種が猛威を振るい始めるなど、コロナの影響は長期化・恒常化しそうな気配だ。暮らしや経済等への影響が一段と深刻の度を増し加えていくことが懸念される

が、こうした動きと併行して気候変動対策の流れが加速するとともに、我が国農業では米過剰の顕在化、農業経営体の減少等、構造的な問題が顕在化・深刻化した一年でもあった。

け止めている。土からち、分散をすすめてい離れて、活動を都市空間に集中することにより効率性・便宜性を高め、一方で画一化しながらの徹底した管理社会をつくり上げることによって、GDPに象徴される「豊かさ」を一極集中型から多極分散型に転換し、各々の地域で地域資源を活用する。その限界をいみじくもコロナがさらけ出している。この「豊かさ」の意味を問うているように思う。

With コロナ時代が求める 「地域社会農業」

増大していくところに最大の価値を置いてきた。その限界をいみじくもコロナがさらけ出している。この「豊かさ」の意味を問うているように思う。

今、基本的に求められているのはソーシャルディスタンスを保つことである。SNSは所詮はバーチャルで管理社会を追求している。SNSは所詮はバーチャルで管理社会を追求している。SNSは所詮はバーチャルで管理社会を追求している。

究所代表